資料４

第3次東近江市環境基本計画の体系図（案）

基本的事項

背景

(1)市の概要
(2)計画策定の経緯
(3)環境をめぐる主な動向
　ア　持続可能な開発目標と気候変動対策の強化
　イ　生物多様性の保全と自然資本の管理
　ウ　資源循環と廃棄物管理
　エ　持続可能な農林水産業と水資源の保全
(4)第2次計画における重点プロジェクトの進捗状況
　ア　代表的な取組の広がり
　イ　取組やキーパーソンのつながり
　ウ　環境・経済・社会の到達状況

基本的事項

(1)計画の位置付け
(2)計画策定のポイント
　ア　脱炭素社会、循環経済、自然再興の同時達成
　イ　自然資本を基軸とした環境・経済・社会の統合的向上の実現
　ウ　森里川湖を基盤とした地域資源の活用による事業創出と暮らしの質の向上
　エ　次世代への継承
(3)計画を推進する主体
(4)計画の対象区域と期間
(5)計画の構成

現状と課題

環境

(1)温暖化（カーボンニュートラル社会の実現）
(2)気候（気候変動への対応）
(3)自然環境（森里川湖の自然資本の維持・保全）
(4)動植物（ネイチャーポジティブの実践）
(5)廃棄物（サーキュラーエコノミーの実現に向けて）
(6)生活環境（環境基準の確認と異状時の迅速な対応）

経済

(1)地域産業（地域資源を活用した持続可能な事業の創出）
(2)経済循環（市外での消費、エネルギー代金による資金流出の抑制）
(3)農林水産業（持続可能な農林水産業の振興）

社会

(1)人口、世帯数（人口減少、超高齢化、少人数世帯化の対策）
(2)歴史・文化（歴史・文化資本の継承と活用）
(3)コミュニティ（地域活動の維持、人と人のつながりの創出）

課題の複合性

環境・経済・社会の統合的向上

住民・事業者意向

重要度が高く、満足度が低い取組
・気候変動に適応するための対策
・外来生物の対策
・温室効果ガスの削減対策
・森林の育成と次世代への継承

目指す将来像

森里川湖の恵みを共に育み未来つなぐ
質の高い暮らしを実感できる循環共生のまち

基本方針

1 いかす
地域資源をいかし、豊かさを共に育む

2 まもる
地域資源の再評価と保全・再生で未来を守る

3 つなぐ
地域の人々をつなぎ、循環共生の仕組みを共に築く

基本施策

ア　自然の恵みをいかしたエネルギーを生み出すまちづくり
- 再生可能エネルギーの推進
- 菜の花エコプロジェクトの推進

イ　森里川湖を育む持続可能な農林水産業のまちづくり
- 森里川湖を守る農林水産業の振興
- 地元産食材や木材の利用拡大
- 環境に優しい商品や事業づくり

ウ　森里川湖のつながりを創るまちづくり
- エコツーリズムの推進
- 流域のつながり創生

エ　生物多様性をいかすまちづくり
- グリーンインフラの整備
- 自然と共生するまちづくり
- 生物多様性を重視する企業との連携

ア　地球にやさしく、気候変動に備えるまちづくり
- 省エネルギーの推進
- 交通に伴う温室効果ガスの排出抑制
- 温室効果ガスの吸収源対策の推進
- 気候変動への適応

イ　森里川湖を保全・再生するまちづくり
- 100年の森づくりビジョンの推進
- 環境に配慮した土地利用の推進
- 森里川湖の保全・再生の推進
- 歴史・文化資本の保全

ウ　生物多様性を保全・再生するまちづくり
- 生物多様性の調査と希少種の保護
- 生物多様性の保全・再生活動の推進
- 特定外来生物の対策の推進

エ　健康で安心して暮らせる美しいまちづくり
- 健康で快適な生活環境の確保
- 美しい景観の形成
- 快適で安全なまちづくりの推進

オ　廃棄物を減らし、資源を大切にするまちづくり
- ごみの減量化の推進
- 資源化の推進
- 廃棄物の適正処理の推進

ア　循環共生型社会づくりを促進する仕組みを持つまちづくり
- 資金調達と伴走支援の拡大
- 企業との連携と資金提供の仕組みづくり

イ　市民、企業、行政が協働するまちづくり
- 協働のきっかけづくり

ウ　次世代を担う市民を育てるまちづくり
- 持続可能な社会を担う人材の育成
- 市民の自然体験の推進
- 環境教育の推進
- 発達段階に応じた体系的な環境教育の構築

重点プロジェクト

- 再生可能エネルギー普及プロジェクト
- 地域特性をいかした自給圏づくりプロジェクト
- 森里川湖エコツアープロジェクト
- 100年の森づくりプロジェクト
- 資源循環推進プロジェクト
- 生物多様性保全・再生プロジェクト
- 水循環保全プロジェクト
- 森里川湖インパクトファンドプロジェクト
- 次世代人材育成プロジェクト